

2学期がスタート！～生徒会長、ポプラ祭のために呼びかける～

いよいよ2学期の始まりです。例によってT先生とふたりで昇降口に立つと、生徒たちが最高の笑顔で登校してきました。「おはよう！」「久しぶり。」「元気になってた？」短いすれ違いの2～3秒ですが、声をかけてアイコンタクトをすれば、一人一人の生徒たちの気持ちが、一瞬でこちらに伝わってきます。おそらく、行動を制限し、おうちタイムが増えた今年の夏休み。その分人とのつながりを渴望していたのではないのでしょうか。いろいろなところで、再会を喜び合う歓声が聞こえてきました。



平和について語る私

さて、学期最初の行事といえば、始業式。今回も密を避け、教室で放送による始業式を行いました。本来は体育館のステージで話すはずが、教務室の片隅のマイクにちんまり座っての講話です（話の内容はHPを参照）。

続いて、田村生徒会長がマイクに向かい、本校生にこう呼びかけました。

『全国で流行中の新型コロナウイルス感染症ですが、長野県でも毎日のように感染者が発生しています。文化祭が近いので手洗いや消毒換気など今まで以上にこまめに行なうようにしましょう。また、ソーシャルディスタンスに心がけてください。一人一人の意識を高めることが、文化祭成功につながります。皆さんの力でこのポプラ祭を素晴らしいものにしていきましょう！』



祭成功に向け呼びかける会長

文化祭実行委員会では、3密を避ける中で、どうすれば充実したポプラ祭になるか、みんなで話し合い工夫し新しい企画を打ち出しています。それは、まさにこれからの子供に経験させたい『対話的で探究的な学び』に他なりません。今日から準備期間に入ります。ぜひ若い力で、8月29日のポプラ祭が成功するよう祈っています。

困ったお話(その6) M&M おじさん探検隊、蓼科高校の学校林を探查！



『本校の学校林に行ってみませんか？』『はい！』M事務長さんの申し出に、私は二つ返事で答えた。戦前より農業科があった本校は、当時、豊かな森林資源も生かした林業科の設置を求める声があったようだ。戦中戦後に森林が荒れたこともあり、新制高校になってすぐの昭和24(1949)年度から林業科が新設された。しかし、残念ながら高度成長と共に林業自体が衰退。13年後の昭和37(1962)年に閉科になったという。



でた！ 青大将

さて、8月18日当日。難行を想定し、私の四駆の軽トラに乗り込み出発。地図を頼りに国道わきから山道に入った。道路はアスファルト舗装から砂利道にかわり、さらに道幅が減少、急こう配になる。昨年の台風19号の影響による路肩の崩落、わだちの砂利流出による道なき道を進んだ。淡々と書いたが、これは「ぼつんと一軒家」以上の悪路！と言えはわかってくれると思う。運転に困憊。つくづく四駆の軽トラでよかった。

そのうち急に視界が広がった。地図を見るとどうやらこの辺りらしい。するとなぜか前方に簡易トイレを発見。奇妙なコントラストなので近づいてみると。ドアに「蓼科高校」と書いてあった。旧友に再会した気持ちになる。学校林の樹種はカラマツとヒノキの植林。そこからなだらかな斜面を歩き、学校林の頂上に向かった。すると、異様な気を感じ立ち止まる。足元を見ると絶句。150cmはあろうか、青大将がジッとこちらを睨んでいるのではないか。逃げようともしないので、木の枝でつつんしたら去っていった。もしかしたら学校林の主で、こちらの様子を見に来たのかも。さて翌日、事務長さんは体調を崩し午後には早退。青ちゃんの祟りじゃあ～！



追記 閉科になっても林業実習は農業科で続いたようだ。本校の『八十周年記念誌』を見てみると、林業科閉科後の昭和38年度の教育課程表が載っており、農業科に「育林」「伐木運材」などの科目名が見られる。おそらく学校林が使われなくなったのは、農業科が閉科した、昭和53(1978)年度以降であろう。